

# Quarterly report



『和蘭字彙』

# No. 72

## 目次

◆2 はちや柿—その味わい、その由来 田村 和親

新入生に読んでもらいたい本

◆3 矢羽 勝幸／渡邊 了好

◆4 森野 崇／瀧田 浩

◆5 大地 武雄／田中 正樹

◆6 小林 昭江／押野 洋

◆表紙資料解説

◆7 佐藤 晋

◆大学資料展示室案内

◆柏校舎図書館 企画展案内

◆8 図書館利用案内

# 季報

二松学舎大学附属図書館

## はちや柿—その味わい、その由来

文学部  
中国文学科 教授 田村 和親

秋が一段と深まる頃、都内の青果店にも、時おり円錐形の大振りの柿が並ぶことがある。「はちや」といい、渋い。この柿が出回れば、冬の到来が間近く、かつてこの柿は季節の風物であった。

私は、北関東・栃木の出であるが、往時、かの地のどの家の納屋にも籾殻、土地でいう「あらぬか」(粗糠)が山のように積まれていた。肥料として用い、また燃料にするためである。ちなみに、この「あらぬか」を専用の竈(「あらぬかへっつい」と呼んでいた)で炊いた飯は、すこぶるうまい。

はちやが色づくとき、子供らは納屋の「あらぬか」の山を掘る。手を差し込めばほのかに温かい。この「あらぬか」を掘った穴に柿を託すのである。数日たつと透き通った深紅に熟す。谷崎潤一郎「吉野葛」で、旧家の主が二人の客に振る舞う「ずくし」(熟柿)は、これである。その色合いの美しさ、味わいの深さについては谷崎の描写に尽きる。ただし、食い方については申し条がある。谷崎によれば、灰の入っていない空の火入れに、どろどろに熟れた柿の実を受けて食うのだという。しかし、この食い方は、果肉で手を汚し、始末が悪い。

熟した「はちや」は、その先端に小さな黒い突起がある。この突起に爪をかけ、慎重に表皮を剥かなければならない。先端から、バナナの皮を剥くように、四方八方にそぎおろすのである。皮は、磨りガラスのように半透明で、ごく薄い。この薄い皮に果肉がこびりつかぬよう、丁寧に作業する。せっかちな子や、不器用な子、食い意地の張った子は、大概は失敗し、口の周りや手を、果肉でべとべとにして無様に食うはめになる。「はちや」を食うには、口の周りはおろか指一本汚さぬ行儀のよさが求められるのである。

土地の老婦人は、果肉に香煎(麦焦がし)を加え、丹念に練る。形を整え、更に香煎をまぶし、器に盛れば、上品な茶うけになる。器は、黒楽か油滴の黒いものが合う。器の黒に果肉の朱が調和して目に美しく、おくゆかしい景色をつくりだす。

北京など寒冷の中国北部では、熟した柿を屋外で凍らせ、凍らせた柿を室内で半解凍しておく。風呂上がりに食し、火照った体を冷ます。柿のシャーベットである。各戸に冷凍冷蔵庫を備える今日では、熟した柿を冷凍保存すれば、

夏までも楽しむことができる。半解凍してスプーンで食う。もともと、食べ過ぎると腹を下す。

大振りなこの渋柿は、様々に加工され、それぞれに味を楽しませてくれる。渋抜きしてもいいし、とりわけ干し柿がいい。この柿に限っては、寒風と太陽に十分に晒し、表面に白い粉が吹くように仕上げるべきである。凝縮された濃厚な味の、食いでのある絶品ができあがる。また茶うけにいい。

柿の名は、それぞれ由来がある。日本最古の甘柿とされる「王禅寺柿」は、現、川崎市麻生区の王禅寺山中で発見されたことから、そう名づけられた。「はちや」は、漢字で書けば「蜂屋」である。江戸時代、牛込の外濠に「揚場」があった。神田川を漕ぎ上ってきた舟から、ここで荷揚げしたのである。この揚場の近くに「蜂屋」という旗本の屋敷があった。北村一夫『江戸東京地名辞典』(講談社学術文庫)によれば、この蜂屋家に柿の古木があって大型の実をつけた。ある時、遠乗りに出た将軍家光が、この屋敷にたわわに実をつけた柿を見つけ、立ち寄って所望した、という。大振りのこの渋柿を「蜂屋」と称するのは、この蜂屋家の柿に由来する、という。

江戸の切り絵図で蜂屋家を特定しよう。JR飯田橋駅のホームに、水道橋を右手にして立つと、外濠を隔てて三菱東京UFJ・三井住友の二行が見える。武家地の一画に、この二行を含むその裏の道路までの、東西に細長い町屋があった。揚場町という。この狭い町屋、二行に向かって右手の、町屋に接した角地が、かつての揚場にあった蜂屋家の屋敷である【下図】。三井住友銀行の一部とその右側に当たる。外堀通りの北一帯の街は、新宿区揚場町として、今もその名を残している。



(「もち歩き 江戸東京散歩」(株)人文社発行より)

## 新入生に読んでもらいたい本

文学部  
国文学科 教授 矢羽 勝幸

### ①「心の灯」 藤森栄一 筑摩書房(ちくま少年図書館10)

「ちくま少年図書館」などとあるが、おとなが読んで十分感動する名著である。著者は民間の考古学者で、すでに故人となっているが現在「藤森栄一賞」として名を残す著名人。旧制中学校だけの学歴で「井戸尻」他多くの業績をあげた。雑貨店の小僧、サラリーマン、アパートのやとわれ支配人、小出版社の社長など職業を転々としながらも考古学の研究に打ちこみ輝かしい業績をあげた。その苦闘の人生をおさえた筆致で描いた自伝の傑作。私は自伝というものは本来好まないが、この本はちがう。バイトがかりで貴重な学生時代を空費している人達などには是非読んでほしい本だ。

### ②「苦労人の文学」 佐藤忠男 千曲秀版社

かつて日本には、苦労が人間を美しくするという考え方があった。六十余歳の今となって、はたして苦労は人間を美しくするのかどうか少々疑問だが、著者は定時制高校卒業の著名な評論家。ごまんという近・現代作家の中から自分と同じ学歴の作家たち(椎名麟三・松本清張・吉川英治ら)をとりあげ、学歴がその文学にいかに関与を及ぼしたかを論証している。評価の基準が“学歴のなさ”、明快で含蓄に富む。いままでこういう切口の本はなかったと思う。高学歴を得ようとしている諸君たちに是非読んでほしい。かつての日本にはこのような学歴差別に泣き、自らの文学に開花させた、すぐれた文学者たちがいたことを。

文学部  
国文学科 教授 渡邊 了好

### ①『青春はうるわし』 ヘルマン・ヘッセ 岩波書店(岩波文庫)

青春小説。岩波文庫版には「青春はうるわし」「秋の徒歩旅行」「少年時代」「ラテン語学校生」が収録されている。中では前者二篇をお勧めする。「青春はうるわし」「秋の徒歩旅行」共に外国に何年かを暮らした青年が、久しぶりに昔暮らした思い出の地を訪ね、過ぎ行く青春の美しさとはかなさを味わう物語だ。岩波文庫の第一版が1939年に出た以来、若い人に愛読されて来た。平成の青春を生きる一年生諸君がどんな感想を持たれるか楽しみだ。

### ②『歴史と外交』 東郷和彦 講談社(講談社現代新書)

日中、日韓、日米間の往来は日増しに頻繁になって行く。しかし三国との間には「侵略」「植民地」「戦争」という過去のどに刺さった刺のようになっている。その刺の性格をどう考えるべきか、どうしたら刺は抜けるのか。優秀な外交官であった著者が、相手国の立場に配慮しつつ日本

人としての立場も述べる、という点でぎりぎりの現実を述べているのが本書である。物足りない人もあろう。しかし、どんな立場に立つにせよ基本はここと言って良い本だ。ちなみに著者は祖父以来三代の外交官であるが、秀吉の侵攻時、薩摩に連れて来られた陶工の子孫でもある。

### ③『日本人のための歴史学』 岡田英弘 ワック株式会社

②『歴史と外交』が常識の書なら本書は今の日本では異端の書だ。それだけに刺激的であることは保証する。東アジアというのが最近流行だが、どうして中国や韓国が日本の東なのか。東アジアはヨーロッパから見て東なのだ。この本には日本人が自分を中心に世界を見たらどうなるかが書いてある。日本中心だからと言って民族主義や右翼ではない。むしろ逆だ。著者が日本を中心に据えてというのは、ヨーロッパの自分を中心に考える(いつも自分を失わない)考え方を徹底的に真似した結果だ。読めば抵抗もあるが目から鱗も落ちるだろう。

## 新入生に読んでもらいたい本

文学部  
国文学科 教授 森野 崇

### ①『煩惱の文法』 定延利之 筑摩書房(ちくま新書)

この本は、普段ほとんど気にしていないことばの問題(例えば、服を眺めては思案している客のことを、店員たちが「あの人、見てるばかりで何も買わないね」とは言っても、店員に「ご試着を」と声をかけられた客のほうは「いえ、見てるばかりですから」とは言えず、「見てるだけです」にしなければならないなど)をいろいろととりあげては、興味深い見方を提示してくれます。「文法」で嫌な思いをしてきた人に、特に読んでみてほしい本です。

### ②『全国アホ・バカ分布考—はるかなる言葉の旅路—』

松本修 新潮社(新潮文庫)

著者は関西で長年高い人気を誇るバラエティ番組のプロデューサーです。「東京からどこまでが『バカ』で、どこからが『アホ』なのか調べて」という視聴者の依頼をき

かけに、「アホ」「バカ」、さらに同様の意味を表す各地の方言について番組で調べていくうち、どんどん規模が大きくなり、ついにはその成果を学会で発表することに……。一連のできごとがおもしろく書かれている上に、「調べ、考える」ということの楽しさを学べる一冊です。

### ③『源氏物語』 紫式部

長い文章は読みにくいし、迷いましたが、文学部の学生、特に国文学科に入った人なら、やはり卒業までに一度はチャレンジしてほしい作品です。マンウォッチングの達人だったのでと思わせる巧みな人物描写、ちょっとしたできごとや発言が後々つながってくるストーリー展開など、有名な古典だからといったことを離れて、とにかく読んでおもしろいですよ。まずは、『あさきゆめみし』や『まる、ん?—大搦源氏物語』から入ってもいいでしょう。

文学部  
国文学科 准教授 瀧田 浩

### ①『ゲーテ格言集』 ゲーテ 新潮社(新潮文庫)

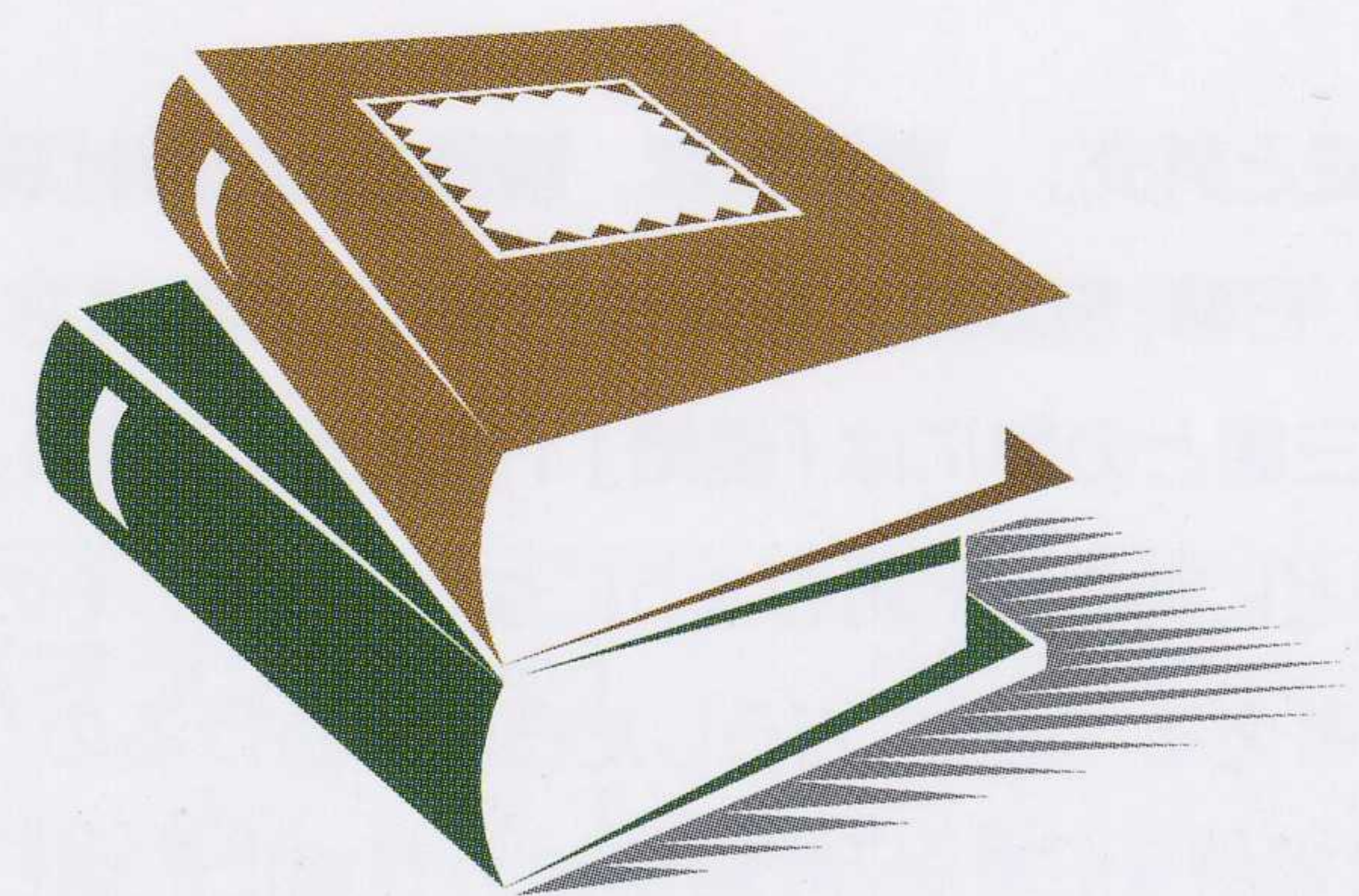
専門的な学問の場に入ってきた新入生に、本来、知は人を自由にするものだと思わせてくれるはず。例えば「気高い人間が狭い範囲に教養を負うことはあり得ない」とある。

### ②『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』 内山節 講談社(講談社現代新書)

学問は日常と地続きである。現代を生きる者としての素朴な疑問が、民間信仰・高度成長・歴史観・西洋思想をつらぬき、知の足場を作ってくれる。

### ③『ラカンの精神分析』 新宮一成 講談社(講談社現代新書)

文系学問でも大事なものは構造をつかむこと。その方法として最も難解とされる、ラカン理論の第一人者による本。強度はあるが、決して銜学ではない。



## 新入生に読んでもらいたい本

文学部  
中国文学科 教授 大地 武雄

### ①『名将の品格』 火坂雅志 NHK出版

NHK大河ドラマ「天地人」の直江兼続の人柄・魅力について書いた本。

利に走った戦国時代にあって、武将上杉謙信から受け継いだ“名将の品格”、仁・義・礼・智・信精神をもって活躍した直江兼続。今日のような偽りの時代にあって義が必要不可欠であると説く著者の視点に注目すべきである。

### ②『中国という世界』 竹内実 岩波書店(岩波新書)

昨年オリンピックが開催され、めざましく発展する経済大国中国。日本の25倍の国土を持ち、4000年の歴史があり、12億の民が生きる中国。近くて遠い存在の中国を人・

風土・家族・文化の側面からとらえ、将来の中国にまで言及した本で中国を理解する手がかりとして好著である。

### ③『論語』 金谷治 岩波書店(岩波文庫)

人間疎外の時代、人の尊厳が失われた時代にあって、人が人として生きるのに何が大切かを身近な親子関係から説き起こし、友人・知人・教育・為政者へと静かな語り口で語りかけてはいるものの、汲めども尽きない滋味深く味わいのある言葉が次から次へと登場する。これが今日迄の日本人のバックボーンとなってきた。もう一度読んでみたい、いや今こそ読まなければならない本である

文学部  
中国文学科 教授 田中 正樹

新入生に紹介したい本は数多くあり古典的名著を挙げることもできますが、ここでは大学生活全般に必要とされる「自ら考えること」を促すヒントを与えてくれる本を、3つの異なるジャンルから選びました。

### ①『生き延びるためのラカン』 斎藤環 バジリコ株式会社

タイトルの意味がわからん!もったもです。でも、我々の属する当たり前の世界に対して何か違和感を覚えるとすれば、そしてこの世界と我々の心はどのような関係になっているのか知りたいと思うならば、是非この本を手にとってみてください。精神科医でサブカルおたくでもある(?)環先生が、文学や映画の分析にも応用されるフランス人精神分析家・思想家ジャック・ラカンの難解な理論をこれ以上ないという程分かりやすく解き明かしてくれます。

### ②『ジンメル・エッセイ集』 ゲオルク・ジンメル 平凡社(平凡社ライブラリー)

『ジンメル・コレクション』ゲオルク・ジンメル 筑摩書房(ちくま学芸文庫)

「エッセイ」というと、短くて気軽に読める文章、と思う

かもしれません。確かにこの2冊に収録されているドイツの社会学者・思想家ジンメルの文章は短いものばかりですが、結構(かなり)手ごわいですが、身近なテーマであっても深い哲学的(美学的)な問題となりうることを(水差しの「取っ手」を美学的に考察した人がかつていただろうか?)教えてくれます。芸術に興味ある人にお勧めです。内容は一部重複しますが、翻訳の違いも味わいましょう。

### ③『漢詩と日本人』 村上哲見 講談社(講談社選書メチエ)

皆さんは漢字嫌い?それとも漢字オタク?近年(だけではないような気がします)両極端な傾向が日本のみならず見られますね。漢字表記をやめた韓国でも漢字リバイバルが興りつつあるようです。文学史から見れば(といってもあまり学校の文学史では触れないかもしれませんが)つい最近(たかが百年ほど前)まで、漢詩漢文は文学(教養)の核を成していました。奈良時代から近代に至るまでの興味深い漢詩の話題が満載です。

## 新入生に読んでもらいたい本

国際政治経済学部  
国際政治経済学科 教授 小林 昭江

①『新幹線ガール』 徳淵真利子 メディアファクトリー

著者は、ホテル業界へ就職したものの、自分の求める仕事ではなかったことで、職を辞す。その後、東海道新幹線の車内販売を担当する「パーサー」となる。社内トップの売上を達成し、正社員となって現在も活躍している。実際の仕事に向けての訓練や、日々の業務の様子を通して、「パーサー」という仕事の舞台裏を見せてくれる。働くとは、そもそもどういうことなのか。仕事を通じて感じることができる喜びとは何か。多くのことを教えてくれる作品である。

①『小説 日本興業銀行（第1部～第5部）』 高杉良 講談社（講談社文庫）

著者は、経済小説を数多く生み出し、その作品は多くの人々の共感を呼んでいる。日本興業銀行（現在は合併し、みずほ銀行）の戦後間もない頃の存亡の危機から、昭和期の興

隆を描いている。頭取の中山素平を中心に据え、彼を取り巻く人々との交流や苦悩を活写する。何が人と人を結びつけるのか。人を信頼するとはどういうことなのか。示唆に富んだ作品である。戦後経済史を概観できる内容となっている点にも注目したい。

②『夜あけ朝あけ』 住井すゑ 新潮社（新潮文庫）

著者は、90歳を過ぎて亡くなるまで、人間の平等を唱え続けた。最も有名な作品は『橋のない川』である。ここでは、長編ではないが、心洗われる作品としてこの本を紹介する。幼くして両親を失った子供たちが必死に生きる姿を、美しい日本語で描く。偶然にも記録映画の映像で、都会に働く兄の姿に触れる妹弟の気持ちはどんなであったろうか。土にまみれて生きる人々の姿が最も美しい、と語った作者の気持ちが込められた作品である。

国際政治経済学部  
国際政治経済学科 教授 押野 洋

①『東京に暮らす』 キャサリン・サンソム 大久保美春 訳 岩波書店（岩波文庫）

世が全体主義に傾斜する時代の一人の英国女性の手になる東京体験記。異国の生活文化を読み解く知性と理解する喜びに溢れた良書。

②『ヴェネツィアの宿』 須賀敦子 文芸春秋（文春文庫）

西欧と日本の重層的な時間性の中に織り込められた家族と様々な人々の心に沁み入る物語。

③『必笑小咄のテクニック』 米原万理 集英社（集英社新書）

この世知辛い世の中を生き抜くにはユーモアが必要。この本で「笑」の仕組みを学んでおこう。

大学での4年間の体験はその後の人生に大きな影響を与えます。乱読、とにかく一冊でも多く本を読んで下さい。

### 表紙資料解説

#### 『和蘭字彙』（オランダジイ）

桂川甫周編。安政2（1855）年～安政5（1858）年刊。19冊。江戸時代に刊行された最大の蘭日辞典。左側にオランダ語、右側に訳語（漢字カタカナ交じり文）が縦書きされている。

## 新入生に読んでもらいたい本

国際政治経済学部  
国際政治経済学科 准教授 佐藤 晋

### ①『現代語訳 学問のすすめ』 福沢諭吉(斎藤孝訳) 筑摩書房(ちくま新書)

あまりにも有名で取り上げるのが恥ずかしいくらいですが、実際にこの本を読んだ人はそう多くはないはず。それが平易な現代語訳となったので、きっと皆さんにも理解しやすいと思います。内容は、学問の意義から、国の独立、国民の役割、社会のあり方、日常生活、人付き合いなど多岐にわたり、また明治維新前後の歴史という観点からも面白く読めます。日本近代史上、最高の知識人福沢による明治期最高のベストセラーです。

### ②『暴走する資本主義』 ロバート・ライシュ 東洋経済新報社

クリントン政権で労働長官を務めた著者が、現在の「市場の暴走」をもたらした超資本主義について批判を展開した本です。著者によると、近年、投資家と消費者の権力

が強まり、激しい市場競争にさらされた企業は労働者を省みる余裕が失われ、雇用は不安定化し平均所得も低下していきました。さらに企業の金の力によって政治が牛耳られ民主主義が変質して市民の力は失われた、という現代資本主義社会への警世の書となっています。

### ③『13日間 キューバ危機回顧録』 ロバート・ケネディ 中央公論新社(中公新書)

冷戦において最も世界が核戦争に近づいた事件、それが1962年に生じたキューバ危機です。一步でも対応を誤ると地球が破滅するという緊張感の中で、アメリカのジョン・F・ケネディ大統領が意思決定を行っていく姿を、弟のロバートが政府内部から観察した緊迫感あふれる回顧録です。生々しい国際政治の現実を伝える本ですが、ケヴィン・コスナー主演で映画化もされ、DVDでレンタルもされているので、そちらもどうぞ。

## 大学資料展示室案内

### 平成21年大学資料展示室企画展開催案内(予定)

大学資料展示室では、月替わりで企画展を開催しています。

開催期間は月の第2週～第4週を予定しています。

詳しくは大学のホームページでお知らせします。

3月 明治・大正天皇と二松学舎の世界

4月 和本の世界

5月 漢籍の世界

6月 創立者・三島中洲の世界

7月 近代作家の世界

## 柏校舎図書館 企画展案内

柏校舎図書館では、4月に企画展を開催することとなりました。

内容は「二松学舎大学の世界—主に創立から専門学校時代まで—」です。

主な展示品は、開業初期の入学願書綴、新聞紹介記事、創立者三島中洲の御進講、専門学校当時の概要、講習会等です。

企画展会場は、5号館(図書館)3階の展示室です。

詳しくは大学のホームページでお知らせします。

## 図書館利用案内

### 二松学舎大学附属図書館について

本学には、九段キャンパスに九段校舎図書館、柏キャンパスに柏校舎図書館があります。両館とも、ほとんどの資料を手にとって自由に使える開架式の図書館です。また、オンライン目録検索システム(OPAC)で両館の所蔵資料を探ることができます。

### 利用のしかた

図書館を利用する際は、学生証(図書館利用証)でゲートからお入りください。お持ちでない方は、カウンターでご相談ください。

### 学外者の方へ

学術研究・調査や生涯学習を目的とした方であれば、図書館を利用できます。詳しい利用案内は、図書館のホームページをご覧ください。

### 九段校舎図書館のフロアガイド

九段校舎本館(1号館)地下1・2階にあります。

- ◇**閲覧室 B1・B2F**  
閲覧室にある資料は、手にとって自由に使うことができます。
- ◇**総合カウンター B1F**  
資料の貸出・予約・レファレンス・利用案内等を行っています。
- ◇**マイクロフィルム閲覧室 B1F**  
マイクロフィルム・CD-ROM・DVD-ROM資料が利用できます。
- ◇**AVコーナー B1F**  
ビデオなどの視聴覚資料が利用できます。
- ◇**貴重本書庫 B2F**  
和書・漢籍があります。  
利用の際はカウンターへご相談ください。

### 柏校舎図書館フロアガイド

柏校舎5号館2・3階にあります。

- ◇**閲覧室 2・3F**  
閲覧室にある資料は、手にとって自由に使うことができます。
- ◇**総合カウンター 2F**  
資料の貸出・予約・レファレンス・利用案内等を行っています。
- ◇**AV資料室 2F**  
ビデオなどの視聴覚資料、CD-ROM資料が利用できます。
- ◇**水木かおるコーナー 3F**  
作詞家水木かおる氏より寄贈された資料があります。  
利用の際はカウンターへご相談ください。



### 開館時間

	平日(授業期)	平日(休業期)	土曜日
九段	9:00~21:30	9:00~16:20	9:00~16:20
柏	9:15~18:55	9:15~16:00	9:15~16:00

### 休館日

- ◇日曜日・国民の休日・祝日
- ◇創立記念日(10月10日)
- ◇年末年始・夏期休業中・学年末休業中の一定期間

### 二松学舎大学附属図書館

季報  
第72号

発行日 平成21(2009)年3月20日

発行 二松学舎大学附属図書館

九段校舎図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

電話:03-3263-6364

柏校舎図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590

電話:04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ

電話:03-5614-2515